



ファクトシート

ヘッドレス型コマースの 価値を訴求するポイント

コマース最新トレンドを自社に取り入れるために、
技術的優位性をビジネスメリットとして伝えるには

コマース領域の開発者や技術リーダーであれば、ヘッドレス型コマースの価値を十分に理解していることでしょう。コマース基盤をバックエンドとフロントエンドへと切り離すことで、APIベースの迅速な開発手法を採用することができるからです。この利点は、開発スピードを高速化できるだけでなく、より差別化された顧客体験の実現、よりシームレスで幅広いクロスチャネル体験を実現できることにあります。

しかしコマース基盤の切り替えには、社内の抵抗が伴うでしょう。フロントエンドとバックエンドを切り離す、という「ヘッドレス」化はあくまで手段であり、目的としての説得力に欠けるからです。事業側の視点からすると、開発コスト増、投入までにかかる時間、不用意な複雑さといった、負の面が懸念されることでしょう。このような場合には、ヘッドレス型コマースの利点を事業側が理解できるように伝える必要があります。

そのためには、技術的な優位性が、ビジネスにどのような利点をもたらすかを示すことが重要です。この資料では、従来のオールインワン型に比べ、ヘッドレス型コマースが優れている理由を、簡潔かつ明確に説明するためのポイントを解説します。

[Adobe Commerceのヘッドレス型
コマース機能について詳しく見る。](#)

技術的な優位性	ビジネスにもたらすメリット
圧倒的な柔軟性 どのようなカスタムのフロントエンドエクスペリエンスでも、任意のテクノロジーを使っていつでも構築できます。	特定ベンダーのインターフェイスに制限されることなく、完全に企業固有のブランドでショッピングエクスペリエンスを構築できます。既存のコマースバックエンドはそのままに、ユーザーインターフェイス部分だけ新たなものを用意すればよいので、コマース基盤を別途導入する必要はなく、新たな顧客ニーズにもすばやく対応でき、競合優位性を確保できます。また、開発チームの準備さえ整えば、使い慣れた開発ツールですぐに開発できるので、よりすばやく市場ニーズに対応できます。
スケーラビリティの向上 ヘッドレスAPIは、高効率（必要なものだけを配信）、高パフォーマンス、低遅延に最適化されています。	ヘッドレスコマース基盤は、webトラフィックやトランザクション量が増加しても、ビジネスに合わせて容易に拡張できます。これにより、ストアにつながらないような事態を繁忙期のピークでも防ぐことができ、売上機会を逃しません。ビジネスが成長してもコマース基盤への追加投資は不要なので、持続性を確保できます。
迅速なイノベーション ヘッドレス型コマースはAPI経由でバックエンドを呼び出すため、AR（拡張現実）、IoTデバイス、音声コマースのような新しい顧客接点で、容易にエクスペリエンスを構築できます。	ヘッドレス型コマースでは、キオスクからスマートウォッチまで、あらゆる顧客接点をコマースの仕組みに容易に接続できるため、新たな収益源を迅速に追加することができます。また、開発が迅速化することで、競合他社に先駆けて新しいエクスペリエンスを提供し、顧客行動の変化にすばやく対応することができます。
あらゆる顧客接点を重視 テクノロジーに囚われることなく、顧客接点において、同一のAPIとバックエンドのコマースサービスを使用できます。	あらゆる顧客接点で一貫性のあるコマースエクスペリエンスを提供できます。ショッピングカート、支払い方法、チェックアウトプロセスなどを統一できます。これにより、買い物客は、より多くのチャネルで安心して購入することができるため、売上の向上につながります。
コマースとコンテンツの統合 ヘッドレス型コマースなら、コンテンツ管理システム（CMS）で運用されている既存のwebサイトに、コマース要素を容易に追加することができます。	既存の企業サイトに、コマース機能を容易に追加できるため、システム選定や導入に時間を費やすことなく、すぐビジネスを開始できます。例えば、Sazeracでは、ヘッドレス型コマースモデルを採用して、同社のBuffalo Trace蒸留所のAdobe Experience Managerを利用したバーチャルツアーに ギフトストアを迅速に追加 しました。

Adobe Commerceについて

Adobe Commerceは、パーソナライズされたショッピング体験と購買体験を企業が提供するのに役立つ、AIを組み込んだコマース基盤です。B2B、B2Cどちらのビジネスモデルにも対応したすぐ利用可能な機能を豊富に備えており、ヘッドレスアーキテクチャの柔軟性を最大限に活かしつつ、3rdパーティ製拡張機能もシームレスに統合できます。[詳細を見る](#)



Adobe, the Adobe logo, and Adobe Experience Cloud are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries.

© 2022 Adobe. All rights reserved.